

中1校外研修 2025.4.18～19

4月4日の入学式以降、中1生向けのさまざまなオリエンテーションがありましたが、その仕上げともいえる校外研修が、鹿児島市少年の家において、18日から1泊2日で行われました。

この研修は、単なる「旅行」ではありません。テーマは「協働」、すなわち「立場の異なる者同士が、対等の立場で共通の目標に向かって協力し合うこと」。自宅生も寮生も、同じラ・サールの同期として、これからさまざまな場面で互いに協力し合うことが必要となります。集団生活の様々な場面で、各々が役割を分担していく経験を通して、仲間としての互いを認め尊重しあう姿勢を身につけてほしい、という考えのもと、関係する教員が前年度から時間をかけて研修計画を練り上げました。

1日目はまず白銀坂登山です。始良市脇元～鹿児島市牟礼岡までの石畳の坂道で、かつて戦国時代には島津貴久や義弘などの武将たちが陣を構えたところだそうです。高低差400m・全長約3kmほどあり、苦戦する生徒も多かったのですが、1時間半ほどで全員踏破。その後、バスで少年自然の家へと移動し、入所式を行いました。昼食をはさんで午後は「つどいの広場」と呼ばれる、敷地内の芝生で思い思いに体を動かす時間となりました。この日は天気もよく汗ばむほどの陽気でしたが、それをものともせず、それぞれドッチボールや追いかっこなどに興じている姿が印象的でした。

夕食等を終えて、この日最後は体育館での「校長先生プログラム」。グループ対抗のゲームを行うなかで、協力すること・奉仕することの大切さを学ぶというものです。読み上げられた計算式を素早く暗算し、予め各班に渡された数字のカードを用いて複数人で正確な答えを表示するというゲームや、リレーをしながら半面に撒かれたカラーボールをできるだけ早く、かつ多く集めて戻る競争など、どのゲームもそれ自体大変楽しいもので、生徒は皆、歓声を上げながら熱中していました。終わる頃にはどのグループもお互いの意思疎通がずいぶんスムーズになったように見受けられました。

2日目の午前中にも、同様の目的を持ったプログラムを実施しました。グループで話し合いながら全員の合意形成（コンセンサス）を行う「NASAゲーム」です。我々は宇宙船の故障で月面に待っている母船から200km離れた場所に不時着してしまった宇宙飛行士である、という設定で、手元に残った10のアイテムに各自生存に必要な優先順位をつけ、その後にグループで話し合いを行い、最終的な順位を決定するというものです。もちろんこの順位には、NASAが公式に発表している「科学的な模範解答」があり、それに一番近いグループが優勝となります。しかし、そのプロセスにおいて、多数決で結論を決めるのではなく、「自分の意見を伝える」「相手の意見を受け入れる」ことを通じて、全員が納得できる結論に至ることが大切です。話し合いが進むうち、議論も自然と白熱したものとなり、結論をまとめるのが大変そうでしたが、自己主張ばかりするのではなく、相手の意見に耳を傾けることとの両立や、対立した考え方同士の落としどころをどう見つけるか、など、これからの社会において必要な「コンセンサスをとる技術」獲得につながる経験となったようです。

今回の研修を通じて、生徒たちは、一人では無理でも皆が協力すればできることの多さや、自分のことだけ考えるのではなく、互いを思いやって行動することの大切さ、などを、身をもって感じていたと思います。これは何も上記のプログラムだけから得たものではありません。少年自然の家では食事係・清掃係など、それぞれの責任を果たす必要があります。そういった活動もまた、互いに協力し合いながら、入学で新しく出会った級友たちと「仲間」になっていく一助となったように思います。

この学年は学園において80期、まさに節目にあたる生徒たちです。しかし、まだまだスタートしたばかりでもあります。彼らがこれからさらに豊かな人間関係を築いていくこと、その出発点として今回の校外研修が機能してくれることを、切に願うばかりです。



白銀坂登山 ゴールはもうすぐ!!



鹿児島市少年自然の家 宿泊室にて



校長先生プログラムで盛り上がっています



曇天でしたが屋上で天体観測に挑戦しました



朝の集い 所員の先生のお話を伺います



NASAゲーム 皆真剣かつ楽しく相談しています



左 退所式にて
「お世話になった先生方にイエーイ!!」
右 帰りのバスに乗る前に b組の集合写真

